



(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和2年 6月23日

宮崎県知事 河野 俊嗣 殿



提出者

住所 宮崎県日向市日知屋16863-10  
 氏名 富士チタン工業株式会社  
 工場長 堀内 久弘  
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)  
 電話番号 0982-56-0029

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	富士チタン工業株式会社 日向工場
事業場の所在地	日向市日知屋16863-10
計画期間	令和2年4月1日から令和3年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

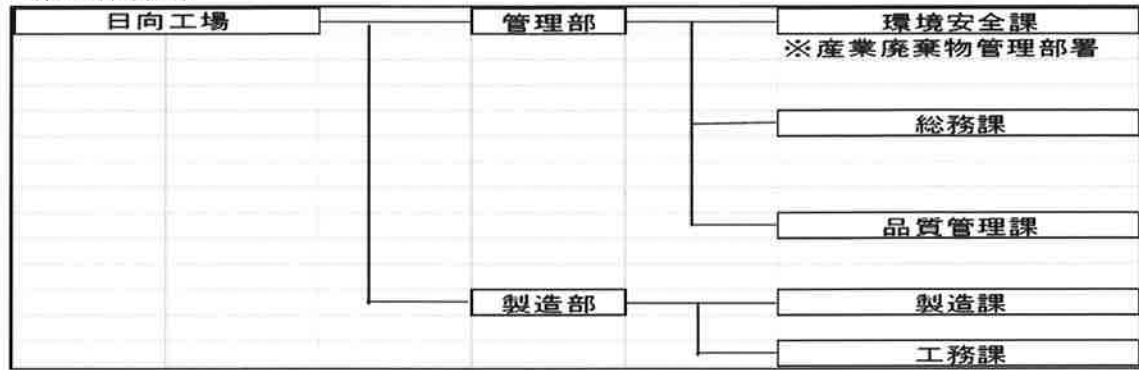
①事業の種類	大分類：製造業 中分類：化学工業
②事業の規模	令和元年度 売上げ 36億 8千万円
③従業員数	令和2年3月31日時点 128名

④産業廃棄物の一連の処理の工程	製造工程	⇒ 排水工程 ⇒	汚泥	⇒	委託処理 (運搬・中間処理・ 最終処分委託)
		⇒	木くず	⇒	
		⇒	廃プラスチック類	⇒	
		⇒	一般廃油	⇒	
		⇒	紙くず(※原料付着紙袋)	⇒	
		⇒	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	⇒	
		⇒	金属くず	⇒	

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和元年度）実績】		
	※その他の廃棄物については、別紙を参照。		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	883.4 t	
	(これまでに実施した取組) ・スラッジフィルターの圧搾工程での圧搾圧力を過去条件の0.45Mpaから0.60Mpaに変更することで、汚泥の水分が約1.4%低下させることがわかったので、平成28年12月より、条件を変更し、継続している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	856.9 t	t
		(今後実施する予定の取組) ・効果を継続的に確認し、その他の汚泥量を低減させる手法を検討する。	

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・汚れたポリ容器は、管理型埋め立て処分をしている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ポリ容器をきれいに洗浄して、再資源化にする。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項                      ※別紙に記入

①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	<b>【目標】</b>	※別紙に記入	
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	発生見込み量 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

〈別紙〉

排出区分	2019年 令和元年度		2020年 令和2年度目標				
	排出量 (トン)		全処理委託量 (トン)	優良認定処理業者への 処理委託量 (トン)	再生利用業者への 処理委託量 (トン)	認定熱回収業者への 処理委託量 (トン)	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量 (トン)
廃棄物処理事業者への最終処分委託							
特別管理産業廃棄物							
有害汚泥(鉛等の有害物含有)	0.00		0.00				
引火性廃油	0.00		0.00				
廃酸	0.000130		0.000126				
廃アルカリ	0.00		0.00				
PCB等	0.00		0.00				
特管産業廃棄物排出量合計	0.00		0.00				
特管を除く産業廃棄物							
汚泥	883.40		856.90				
木くず	33.20		32.20				
廃プラスチック類	18.40		17.85				
一般廃油	69.70		67.61				
紙くず(※原料付着紙袋)	-		-				
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	37.03		35.92				
がれき類	5.11		4.96				
金属くず	10.20		9.89				
特管を除く産業廃棄物排出量合計	1057.04		1025.33				
産業廃棄物排出量の合計	1057.04		1025.33				

差し換 7/29 受領.